

透過型の効果— 生態系の保全・環境保全

格子形鋼製砂防えん堤



坊の奥川砂防えん堤 鋼製部高10.5m、鋼製部幅8.8m、水通し幅11m(74.1トン)平成6年[兵庫県]

4. 鋼製砂防構造物の効果事例



上の沢第4砂防えん堤 鋼製部高10.5m、全幅62m、鋼製部幅10m、水通し幅12m(121.4トン)
平成7年[飯豊山系砂防工事事務所]

格子形構造



周辺部の植生も回復し、渓流魚の生息も見られるようになった 平成11年撮影

小六郎沢えん堤 鋼製部高12m、全幅58m、
鋼製部幅23.8m、水通し幅13.2m(149.2トン)
昭和55年[新庄工事事務所]

4. 鋼製砂防構造物の効果事例



鹿狩川砂防えん堤 鋼製部高8m、全幅51m、鋼製部幅16.8m、水通し幅20m(105トン) 平成6年[福岡県]



上流部の堆積状況



溪流魚が生息する河床部



上流域に荒廃が見られ土石流危険渓流に指定されている



百合谷川に設置した曲線を有する最下流タイプの砂防えん堤
鋼製部高8m、全幅48m、鋼製部幅8m、水通し幅11m(72.8トン)
平成10年[和歌山県]



下流域の保全対象となる集落と田畑

4. 鋼製砂防構造物の効果事例



鋼製部高10.5m、全幅35m、鋼製部幅16.8m、水通し幅20m(186.8トン) 平成5年



鷹尾第2えん堤 溪流環境保全に配慮した砂防えん堤を設置 [六甲砂防工事事務所]



公園内では自然を学び体験できるゾーンが設置され、環境にも配慮された格子形鋼製砂防えん堤で保全対策が行われている



直下流域には基幹道路と住宅街が集合しているため、最下流タイプ格子形が設置された



古瀬沢砂防えん堤
鋼製部高8m、全幅62m、鋼製部幅11.2m、水通し幅13m(118.8トン) 平成11年[奈良県]

鋼製スリットえん堤A型



三峰川 鋼製部高3m 昭和62年[長野県]



大猿 鋼製部高3m・2m 平成3年[群馬県]



堆砂後も自然な水流を確保する



塩井川 鋼製部高3m スリットの間を小さな礫が流れている 平成3年[熊本県]



北里川 自然の流れを阻害しない、土砂の堆積は自然の流れによる 鋼製部高4m 平成5年[熊本県]



北里川 鋼製部の塗装面変色は礫等の捕捉、衝突による 鋼製部高4m 平成5年[熊本県]

鋼製スリットえん堤B型



滑川 鋼製部高6m 平成12年[多治見工事事務所]



鋼製部高5m 平成5年[大分県]

鋼製L型スリットえん堤



基礎部にコンクリートを打設しない鋼製L型スリットえん堤は、河床を構造物設置以前の状態に復元できる。また、前庭部の護床工として現場発生の巨石を敷き並べることで、河道の連続性、自然景観を創出できる。



運上川 上流側 鋼製部高8m、全高10m 平成11年度 [長野県]

鋼製D型スリット

基礎コンクリートの一部に溝を設け滞筋を固定することにより、簡単に魚道を確保することができる。



清水谷川 滞筋固定で魚道を確保 鋼製部高3m 平成11年度[倉吉工事事務所]



殿川 鋼製部高3m
平成11年度[岐阜県]



清水谷川 鋼製部高3m[倉吉工事事務所]

鋼製h型スリット



鳥居川流木止工 鋼製部高4m、鋼製部幅22.5m、水通し幅25.7m(358トン) 平成9年[長野県]



宮谷川3号流木止工 鋼製部高3m、鋼製部幅24m、水通し幅25m(21.2トン) 平成11年[奈良県]